

## 「高尾山」の利用状況と施設の整備についての一考察

No.4 川口 理

No.8 林 憲幸

### はじめに

私たちは以前、現場の森林官として国有林の管理を行っていたが、近年自然を楽しみたい人たちが国定公園や、国立公園などの自然公園等を利用する事が増えてきていた。

こうした状況のなか、他の地域の自然公園はどのような状況になっているのか、について興味をもち、調べてみたいと考えた。

また、森林環境教育や森林セラピーの場として国民の森林への関心が高まってきており、自然公園はそのような場としても多くの人々に利用されている。

「高尾山」は、大都市住民に対する野外レクリエーションの場の提供を目的に設定されており、高尾山を中心とする「明治の森」の利用者数は昭和46年には133万人だったものが、平成19年には約2倍に当たる260万人へと大きく増加してきている。さらに、ミシュランガイド（ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン）に掲載されたことにより、今後ますます利用者は増えるものと予想される。（写真-1・2）

また、関係者から現在の利用者について聞き取りを行ったところ、高齢者の割合も増えてきているとの話が聞かれる等、利用者数の変化のみではなく利用者層も変化してきていることがわかった。

高尾山には、利用者が快適に楽しめるよう、案内板や散策のための歩道、また、休憩所等の施設が設置されている。しかし、このような施設に対する考え方が、利用者の増加や利用者層の変化により、変わってきているのではないかと考えた。

このため、高尾山の利用状況について実態を把握するとともに、施設への意見や要望を調査・分析することにより、利用しやすく、また、機能的な施設とはどのようなものかを考察することとした。



写真-1 高尾山入口



写真-2 高尾山山頂

## 第1 研究方法

### 1 高尾山の整備状況や利用者数の推移についての調査

関係機関等に過去からの高尾山の利用者数の推移や利用者状況について、聞き取り調査、資料及び文献の収集を行い分析する。

### 2 アンケート調査表の作成

アンケートを作成するにあたっては、質問と回答項目は出来るだけ多くの回答をいただく事を念頭に置き、「答えやすい」、「短時間で終わる」、「集計しやすい」を基本とし、有効な分析結果が得られるよう検討を行う。(図-1)

#### (1) アンケート項目

出来るだけ多くの人から回答をいただけるように質問内容は簡素化すること、また集計・分析を意識し、項目は、性別・年齢・出発地・グループ構成・利用回数・施設に対する要望など必要最小限の項目とする。

#### (2) 記入方法

回答者に負担がかかるよう、回答に要する時間を極力短くする必要があること、また質問に対する疑問や誤解を生じさせないこと、さらには、記入が容易に出来るように回答項目は選択式とする。不足部分はコメントとして別に記入する欄を作成する。

**高尾山の施設利用状況等のアンケート調査**

実施 林野庁 森林技術総合研修所 

※該当するものに○をつけてください

① あなたの性別、年齢について

男性 女性

1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代  
5. 50代 6. 60代 7. 70歳以上

② 本日はどちらからお越し頂きましたか？

1. 都内 2. ( )  
一人 友人 家族 (ペビーカー 有 無) サークル ツアー 行事

③ 高尾山へ来られたのは何回目ですか？

1. 初めて 2. 2~5回 3. 6~10回 4. それ以上( )回

④ 高尾山に来て不満な点、または改善してほしい箇所はありましたか？  
※該当項目に○または□をお願いします。複数記入可

1. トイレ等施設  設置箇所 < 増やしてほしい 減らしてほしい >  
 大きさ < 広すぎる 狹すぎる >  汚い

2. 歩道等について  口荒れている  口舗装が急  口滑りやすい  
 口手すりがほしい  口スロープがほしい

3. 休憩施設  口狭い  口数が少ない  口多すぎる  口老朽化  
 口汚い  口位置悪い  
 ベンチ < 増やしてほしい 減らしてほしい >

4. 景観の改善  口樹木が邪魔  口樹木が少ない  口ゴミが多い  
 展望台 < 広い 狹い >

5. 案内板等の設置  口増やしてほしい  口減らしてほしい  
 ルートが解りづらい  口修繕してほしい

6. その他

ご協力ありがとうございました。

図-1 アンケート調査票

#### (3) 集計・分析

各項目の回答を組み合わせることにより、年齢毎の利用回数や、施設への意見、年齢層による考え方の違いを集計できるフォーマットを作成する。

### 3 アンケートの実施方法について

#### (1) 調査時期

調査については、平均的な結果が得られるよう、平日・休日に分けること、また、秋の紅葉シーズンで来場者のピークを迎える時期と、通常の時期に分けて調査を行うこととして設計した。しかし、今回は調査の開始が秋以降になったので季節による来訪者変化を調査することが出来なかった。

調査については、実際に現地で質問項目に沿って、直接利用者に聞き取りを行う方法と、山頂にある「東京都高尾ビジターセンター」にアンケート用紙と回収箱を設置し、利用者の意志により回答をいただく方法で行う。

## 第2 調査結果

### 1 調査の実施

八王子観光協会、高尾登山鉄道株式会社等の関係機関から今までの利用者の推移と利用状況の変化について、聞き取りや文献などの収集を行ったが、詳細なデータを得ることができなかった。

アンケート調査では、現在の利用状況について把握するとともに、利用者の施設に対する要望を調査し、これにより得られた情報を分析し考察することとした。

### 2 アンケート集計結果

高尾山の山頂を中心にアンケート調査を行い、直接利用者から聞き取りを行うことで選択式による回答以外にコメントも数多くいただくことができた。(写真-3)

また、「東京都高尾ビジターセンター」にも、協力をいただきアンケート用紙と回収箱の設置を行った。(写真-4)

この結果、回収箱によって得られた約80件の回答と合わせ、最終的には632件の回答を得ることができた。



写真-3 現地での聞き取り調査



写真-4 東京都高尾ビジターセンター

### 3 集計表の作成

分析を容易にするため、エクセルによるクロス集計のフォーマットを作成し、アンケート情報の入力と集計を行った。(図-2)

図-2 アンケートクロス集計表

## 4 アンケートの分析

## （1）利用者の情況

集計結果から分析を行ったところ、図-3のグラフのとおり、主な利用者は、首都圏からの割合が多く占めており、都内23区や埼玉県・神奈川県等からの利用者が多く「都市近郊林」として機能していることが分かる結果となった。また、少数ではあったが九州や北海道などから来た利用者については、ミシュランガイドに掲載されていたので一度訪れてみたかった等、聞き取り調査で分かった。

男女比については、ほぼ同数となり年代別では10代・70代以上については、件数が少なかったものの、他の年代は同じような割合であった。

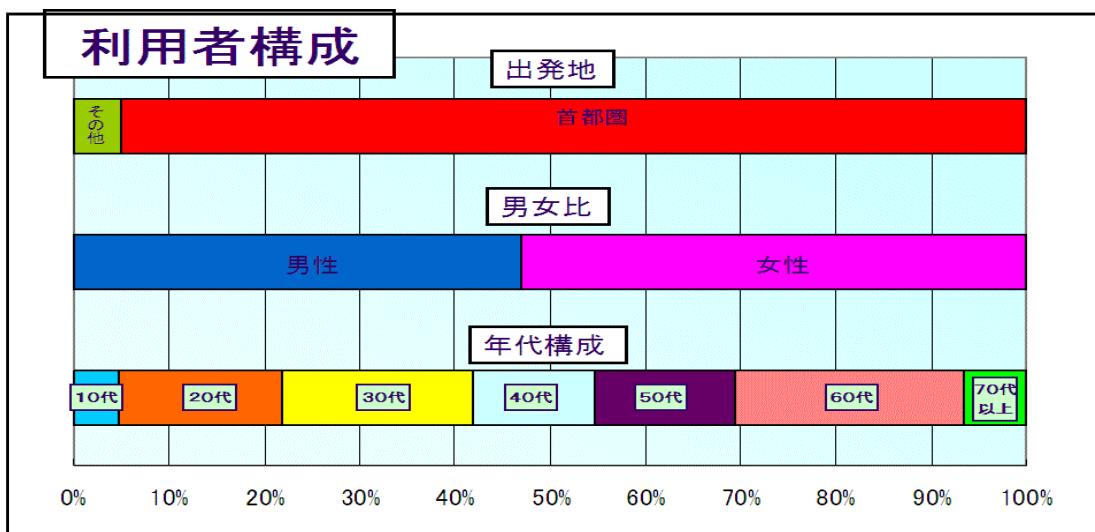


図-3 利用者構成グラフ

## (2) 利用者のグループ構成

グループ構成は、年代によって大きな違いが見られ、図-4のように20代では友人と来ていると答えた者が多く、30代以降では家族と来ている利用者が多かった。

また、年齢が上がるにつれ一人で来る割合が増えている。この様なことから年代により高尾山の楽しみ方や利用形態に違いがみられた。

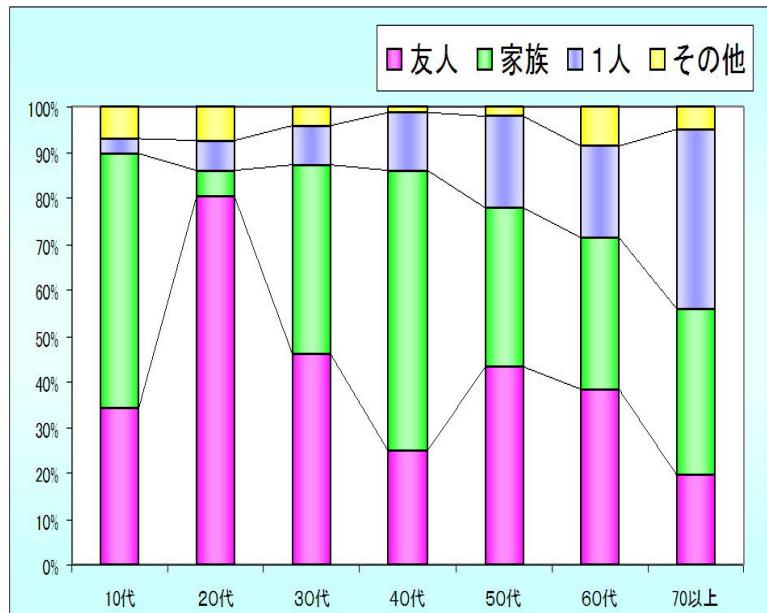


図-4 利用者のグループ構成

## (3) 年齢別の利用回数

再来率は、約7割であり、高尾山には再来者が多いことが分かった。

年齢毎の利用回数では、年齢が高くなるに従って利用回数が多くなる傾向にあり、60代以降では年に何回も訪れる利用者が多く見られる。

(図-5)

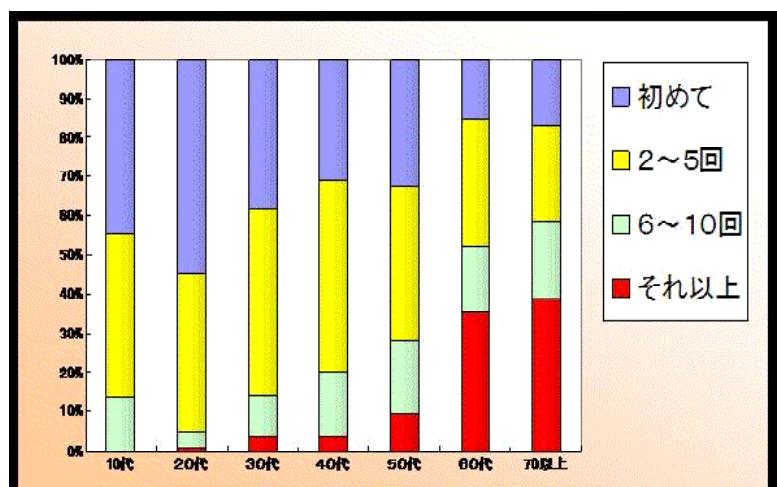


図-5 利用回数別グラフ

## (4) 施設の種類別の要望

施設への要望と利用回数の関係について集計・分析を行ったところ、訪れた回数が少ない利用者は全ての施設について要望が非常に多いのに対し、訪れた回数が6回以上の利用者は施設に対する要望が少ないなど利用回数の違いにより大きな差があることが分かった。(図-6)

これは、利用回数が増えるほど施設に対する情報が十分あり、ルートの選択や混雑時の対応がスムーズに行われることにより、要望が少ないと推測される。

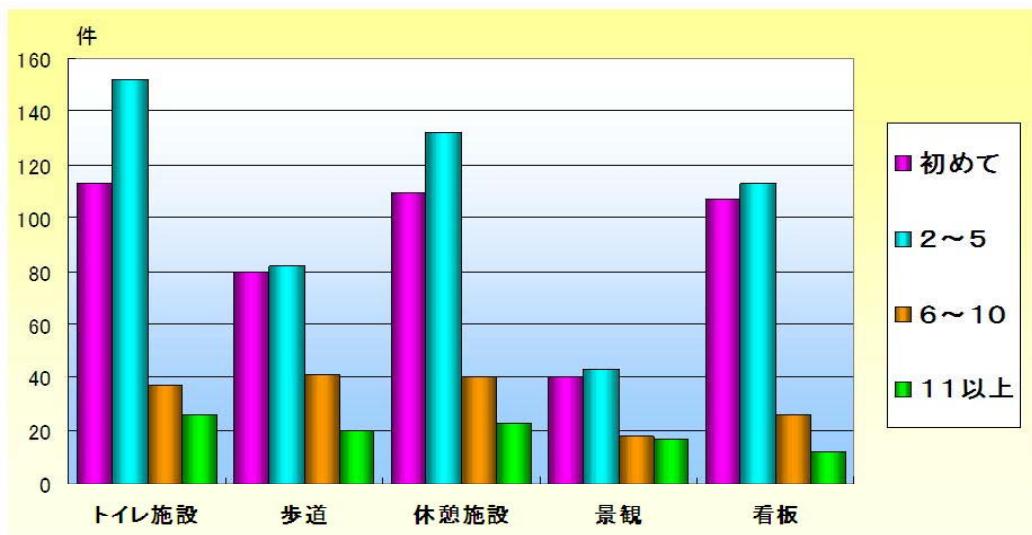


図-6 利用回数毎の施設に対する要望

### 第3 考察

#### 1 施設に対する要望が多い原因

施設情報の発信となる案内板について年代ごとに集計・分析したところ、全ての年代で「ルートがわかりづらい」、「案内板を増やして欲しい」、という結果が出ている。(図-7)

その原因の1つとして高尾山の事前の情報や現地での情報が不足することによるものであると考えた。

のことから、施設に対する要望に応えるためには、初めて登山をする利用者でも快適に高尾山を利用することができるよう、現地の情報を正しく、わかりやすく提供することが重要であり、情報の発信の手段として案内板の充実が最も有効であると考えた。

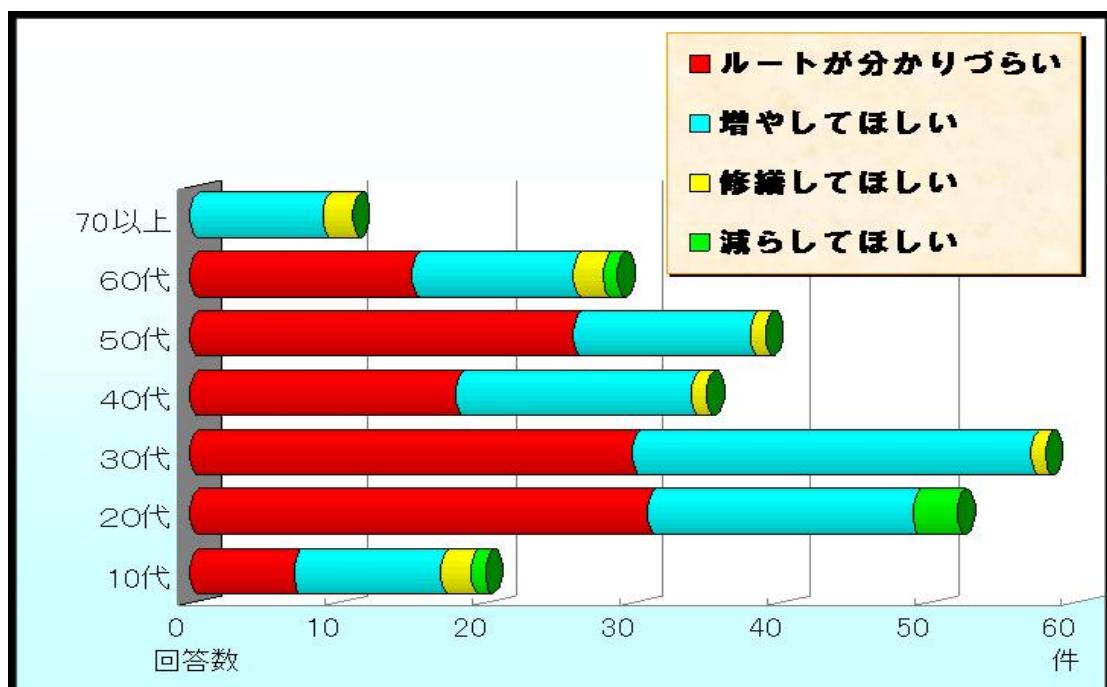


図-7 年齢別案内板に対する要望数

## (1) 看板施設の調査

現在は東京都・林野庁・環境省・薬王院・京王電鉄等各機関が看板を設置しているが写真-5のとおりそれぞれルートや情報の表示が異なっている。そのため、そのつど案内板にある説明を読み、確認し直さなければならないと考えられる。



写真-5 高尾山に設置されている看板

## (2) パンフレット・ホームページ

案内板だけではなくパンフレットやホームページについても図-8のように作り方に統一性がないため、ルートや施設の状況について解りづらいとされる原因と考えられる。

また、ミシュランガイドの掲載により、初めて訪れる利用者が今後ますます増えていくことも予想されることから、案内板やパンフレット、ホームページの情報を充実する必要があると考えられる。



図-8 パンフレット・インターネット掲載図面

## 第4 結論

### 1 案内板の内容について

#### (1) 各機関が連携し、統一性のある看板作り

案内板を統一させることによって、そのつど説明を読み、確認し直す必要が無くなるとともに、利用者同士の情報が共有しやすくなる。

#### (2) 距離や時間の表示

主要地点やトイレ等施設までの距離や時間を表示することによって無理のない登山を行える。

#### (3) パンフレットやホームページ

パンフレットやホームページで掲載されている地図の表示を現地の案内板とリンクさせることにより、事前に入手した情報をそのまま使用できる。

これらのことを行うことにより、混雑時の休憩施設、トイレの不足やルートに対する不満の軽減につながり、また初めて訪れた方でも安心して登山が行えるようになると考える。

### 2 案内板の作成の方法

作成方法の一例として図-9のようにパンフレットに合わせたカラーリングを案内板に表示させることにより、現在利用しているルートがどれにあたるかわかりやすくなる。

また、主要地点に頂上や登り口までの距離や時間の表示を行うことも必要である。

その他の表示として、「混雑時、頂上へ行く前に事前にトイレを済ませておきましょう」などの詳細な説明を入れることも重要なことだと考える。

これらの表示を行うことにより、混雑時の施設利用が円滑になり施設を増やしてほしい等の要望に応えるものと考えられる。



図-9 案内板の作成例

## 第5　まとめ

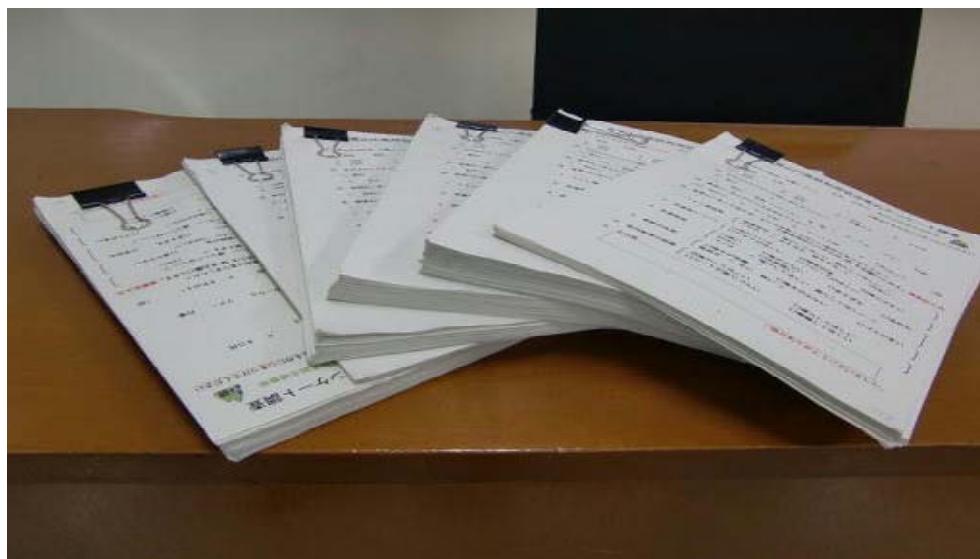
明治の森「高尾山」についてその利用者と施設に関する調査・分析を行った結果、利用者の立場に立った情報発信が重要と考え、そのための手段として案内板等を整備する必要性に着目し考察を行った。

今回は、調査の開始が遅れたことから季節による変化について分析を行うことができなかったが、季節により利用の情況が変化すると思われることから、1年を通してアンケート調査等を行うことが必要と考える。

本調査結果は、地元の自治体や観光協会、または高尾地域連絡会へ提供するとともに、他の国定公園や登山の出来る山で整備を行うための参考例ともなることから、広く関係機関へ調査の情報を提供することとする。

### 謝辞

最後に、本課題研究の取組にあたり、御指導・ご協力を頂いた関係各位に厚くお礼を申し上げます。



回収したアンケート用紙　(632件)

### 【参考文献・資料等】

(1) 書籍

財団法人国立公園協会（2009）「2009自然公園の手びき」

（2）行政機関等の調査報告書、白書、統計要覧等

内閣府（2007）「森林と生活に関する世論調査」

東京都（1967）「明治の森・高尾国定公園、公園区域及び公園計画書」

八王子市観光協会（2004）「紅葉祭り・若葉祭り入り込み調査報告書」

林野庁（1999）

「森林総合利用施設におけるユニバーサルデザイン手法検討会報告書」資料

（3）協力

高尾登山鉄道株式会社 <http://www.takaotozan.co.jp/index.htm>

八王子観光協会 <http://www.hachioji-kankokyokai.or.jp/>

高尾山薬王院 <http://www.takaosan.or.jp/index.html>

京王電鉄株式会社 <http://www.keio.co.jp/>

東京都高尾ビジターセンター <http://www2.ocn.ne.jp/~takao-vc/>

関東森林管理局 <http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/>

東京都環境局 自然環境部 緑環境課 <http://www2.kankyo.metro.tokyo.jp/sizen/>

高鉄交通株式会社